



No.90 2009・2・1

ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM

発行 石川県立歴史博物館

〒920-0963 金沢市出羽町3番1号

TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836

<http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/>



ISHIKAWA-KEN
HISTORY
MUSEUM

れきはく

企画展

れきはくコレクション 2008



御所人形 見立勸進帳 江戸時代後期

会 期 平成21年2月14日(土)~ 3月22日(日)

会 場 第1特別展示室・第4展示室

開館時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)会期中無休

入 館 料 一 般 250円(200円)

大学生 200円(160円)

高校生以下無料

()内は20名以上の団体料金

企画展 れきはくコレクション2008

開催によせて

平成十八年度から、これまでの「新収蔵品展」という名称を「れきはくコレクション2008」という名称に変更し、展示手法はさほど変わっていません。しかし、新しく購入したり、寄附いただいた資料などで、展示内容は毎年変わります。

今年度も多くの県民の皆様、さらには県外の方からたくさんの方の寄附申込があり、「れきはくコレクション2008」を開催できる運びとなりました。この紙面を借りて、ご協力いただいた多くの方に、厚くお礼申し上げます。

関連事業

列品解説(事前申込不要)

二月二十二日(日) 学芸専門員 濱岡伸也

三月 七日(土) 資料課長 本谷文雄

三月 十四日(土) 学芸員 大井理恵

いずれも午後二時～二時三十分

参加ご希望の方は入館料が必要です。

れきはくメイト会員は無料。必ず会員証を提示

してください。

平成20年度収蔵資料一覧(平成20年2月～21年1月末現在)

資料名	点数	寄贈者(敬称略)
歴史資料		
下安江村古文書	21	安本由香
銀貨	2	安本由香
安本常松関係資料	67	安本由香
木製鑑札	1	安本由香
銅製迷子札	1	安本由香
謡本	42	安本由香
金沢市地図	1	安本由香
古写真	3	安本由香
前田利鬯書状	1	松村正
百人一首	1	北方匡
藩主巡行昼休指示書付	1	柳原典
前田治脩書状	1	大沢喜久
前田斉泰書状	1	大沢喜久
招魂祭煙火大会賞状	3	松田二郎
新保青年団演芸大会記念写真	4	西利枝
のと鉄道開業記念乗車券	1	清水弘
小室勝三氏収集資料	307	小室勝三
藩札資料	9	島田一郎
時刻表	1	酒井英次
試作灰皿	1	松田悠美
カルタ	1	松田悠美
手持ち万力	1	米林繁男
パネ付万力	2	米林繁男
ねじ切り	2	米林繁男
錠前	2	米林繁男
槍	1	米林繁男
官報県達(石川県広報綴)	1	三枝大蔵
市町村制問答詳解	1	三枝大蔵
四高ピラ「全学生諸君に檄す」	1	大森定嗣
四高学生運動史原稿	1	大森定嗣
東廓登楼客台帳	1	法村龍夫
犬養毅書額	1	橋本澄夫
犬養毅書幅	1	橋本澄夫
犬養毅書扇子	1	橋本澄夫
井上準之助書幅	1	橋本澄夫

資料名	点数	寄贈者(敬称略)
句仏上人句幅	1	橋本澄夫
篠崎小竹書屏風	2	橋本澄夫
清水家資料	151	清水千鶴子
法村外次軍隊関係資料	66	法村龍夫
鉱山売買関係資料	4	法村龍夫
農地買収国債	3	法村龍夫
和歌卷子	1	購入
初午画賛	1	購入
大和百貨店写真帖	1	購入
古写真・絵葉書	341	購入
民俗資料		
木製看板	1	安本由香
蓬葉文様御重掛	1	安本由香
鳳凰に松図風呂敷	1	安本由香
家紋風呂敷	1	安本由香
リードオルガン	1	町邦浩
盆燈籠	4	山田芳和
フセカゴ(虫売り用)	1	大崎清子
イコ(虫売り用)	2	大崎清子
カゴ(虫売り用)	2	大崎清子
うちわ	54	宮川正浩
ハイカラ鍬	1	森山庄五郎
看板「能登の葉」	1	購入
美術品		
赤絵金彩李白観瀑図小皿	14	安本由香
赤絵金彩龍図蓋置	1	安本由香
短刀 無銘	1	柳原典(旧姓新家)
御所人形	4	吉田誠
金地秋草に小禽図屏風	2	吉田誠
兼六園に金沢城図屏風	2	購入
遠山に家屋図縁頭	1	購入
考古資料		
北陸人類学会会員冨田彌作採集資料	99	佃和雄
橋本澄夫収集考古学関係資料	233	橋本澄夫
総計	1,485	



看板「能登の薬」



イコ（虫売り用） 大崎清子氏寄附



藩札資料 島田一郎氏寄附



前田斉泰書状 大沢喜久氏寄附



方向板「蛸島行」小室勝三氏寄附

吟行会投句作のご紹介

九月二十三日と十月七日、歴史博物館と本多の森を会場に「歴史博物館吟行会」を開催しました。これは秋季特別展「御用絵師梅田九栄と俳諧」関連行事として企画したものです。二日間の参加者は合計十八名で、学芸員による特別展案内と本多の森ツアー（自由参加）もあわせて実施。秋気深まる本多の森に分け入り、思い思いに句作りをお楽しみいただきました。ご参加の皆様のご投句の一部をご紹介します。

- 何語る巨木の群れを秋の風 S・M
- 秋涼し俳詞百余の屏風の絵 詩葉子
- 日の斑あぶ本多の森は秋の風 C・U
- 秋分の日歴博で見る俳祖の絵 M・M
- 幾代経し本多の森や薄紅葉 田鶴子
- 苑紅葉風にも色のありさうな 重子
- 秋気澄む歴博館の佇まひ 菅子
- この先は美術の小径小鳥来る 美智子
- 木屋や練兵場を偲びつつ K・H
- 煉瓦館歴史のあゆみ知る紅葉 K・I
- 兵器庫は歴博館へ秋流る 猫々
- 未枯るる木に囲まれし煉瓦棟 F・S
- 木屋の香をきて芭蕉の頭陀袋 柳女
- 本多の森声澄み通る鴨の声 Y・Y
- 実を拾い武家の暮らしに思いはせ 昌子
- 花爛漫よみし枝垂れも黄葉して 芙見子
- 溢れたる辰巳用水くるみ割る A・K
- 椎の実を本多の森に拾いけり 桂子

館長随想

実盛の二つ

脇田晴子(当館館長)



それは老翁の姿で実盛の幽霊が現れて、他阿上人の称

当歴史博物館に奉職して、はや二年近い歳月がたちました。もともと私は、文化の高いこの土地が好きでした。金沢に奉職して、あちこち見てまわるのも悪くないなあという不純な？動機も含まれて居ました。そしてまた、父母の趣味で子供の時からお仕舞を習わせられ、能楽の子方もなご致しました。大人になつてからも能楽は、「卒都婆小町」を最後に、十一番演じました。歴史学、しかも中世史を専攻したのも、その影響もあると思っています。金沢は能楽の盛んな土地柄ですから、それも魅力でした。

石川県を御当地とする能楽としては、やはり「実盛」がもっとも名曲だと思えますし、私も好きです。未っ子で兄や姉に子供扱いされて、腹を立てつつ育った私も、もはや老境に入つて、実盛の心境がわかります。私も白髪を染めておりますから。

さて能楽「実盛」は、源平合戦の時、加賀国篠原で討死した実盛の幽霊が、時宗の本山遊行寺の他阿上人の前に現れたという、時宗の宣伝めいた霊験譚を、世阿弥が早速、能楽(申楽)に仕立てたものです。当時の話題をそのまま能楽に組み立てるといふ、言わば際物めいたものですが、さすがに世阿弥、名曲たることを外していません。また、世阿弥五十一歳位なので、作能の初期段階ということもできましよう。

能楽「実盛」のあらすじは、前場は、加賀国篠原の里で説教をする他阿上人が、時々独り言をいっという。

名に和するのだが、亡霊の姿は上人以外の余人にみえず、独り言を云うと思われているという設定です。

上人に問われて幽霊は、この篠原の木曾義仲と平家との合戦に討死した長井の斎藤別当実盛だと名乗ります。そして合戦の時、若い武士たちに老人と侮られまといと、白髪を染めて出陣し討死したのを、この前の池で洗われた執心が二百年も残っているというのです。

そして後場では、上人の別時の称名によつて、実盛の幽霊が甲冑を帯して現れて、髪を黒く染めていたのを討死の後、前の池で洗われて白髪になったことを語り、また、実盛が独り武者で、大将でもないのに錦の直垂を着ていたことは、死地に赴く覚悟で、「故郷に錦を飾る」という故事に準じて平家の許しを得たという次第を語ります。そして手塚の太郎光盛に討たれる「合戦はなし」で曲は終わります。

この曲の制作時、世阿弥五十一歳ごろ、それにしては老いの悲しさがよく分かつていると思えますが、初老が四十歳ですから、長生きの世阿弥ですが、案外この年頃、「老い」を痛感していたかもしれません。しかし、それにしても源平騒乱時の平家の若い公達などを主人公とする修羅物の夢幻能を多く作つた世阿弥が、その初期ともいふべき時に、老武者の夢幻能を書いたのは、なかなか面白いあり方と云えましよう。

この曲において、時宗の勸進と、実盛討死の哀傷との関係を取り上げられたのは、アメリカの能楽とギリ

シャ劇の比較的研究家、ピッツバーグ大学のメイ・スメサーズト教授であります。彼女は、「一念称名の聲のうちには、摂取の光明曇らねども、老眼の通路なほもつて明らかならず」といふ前シテとして実盛が謡う言葉から、老いと老眼による「場(二ツ)」「への道の隔たりを、悟りへの道の遠さとに重ね合わせている述べ懐を指摘して、すでに「シテの悲劇が、劇に導入されるという意味」での重要性を指摘しておられます。すなわち、夢幻能の幽霊の必然的な出現劇が、時宗の他阿上人の念仏勸進に結びついて、すでに前場のシテの老人の出現から用意されているのです。

たしかに世阿弥の夢幻能は、約束ごとになつてしまつた後の定型化した夢幻能とは違つて、亡霊出現の状況設定が綿密で、現代人にもわかるような準備があります。それは世阿弥が現代人にも通じるような合理的思考があり、しかも演劇の方法・手段として夢幻能を採用したからだと私は考えます。もちろん世阿弥は一方で、怪異や奇跡を信じる人でもありました。しかし、両者は世阿弥の夢幻能ではうまく整合しています。夢幻能という亡霊が出てきて生きていた時のありさまを語るという世界でも特異な演劇形式は、「地獄に沈んだ亡者の救済のための勸進からの影響」という松岡心平氏の説と、加藤周一氏の夢幻能の内容は「すべて此岸の出来事、恋や合戦や風流であつた」とする意見があります。この対立する二つの見解に対し、「実盛」においては双方を満足させる曲となつて居るのです。時宗勸進による亡者の救済と、平家物語の語る実盛の最後の哀傷が実に矛盾なく、組み合わさつて居るのであります。この曲を前提として加藤氏のいわれるような、亡者のこの世での語りを中心とする夢幻能のジャンルが確立して定型化するのだと考えています。

秋の京都を満喫！ れきはくバスツアー



東寺（京都）

世話下さいました関係の皆様、改めて御礼を申し上げます。

十一月六・七日の二日間、秋のバスツアーを実施。今回は「宇治とJapan時絵展を訪ねて」をテーマに一泊二日の行程で、京都方面へと足をのびました。見学先は萬福寺、平等院、源氏物語ミュージアム、京都国立博物館、三十三間堂、東寺。何とか天候にも恵まれ、各訪問先では関係の方々から丁寧な案内をいただき、とても充実した旅となりました。ここに現地でお

第四回石川の歴史遺産セミナー開催



九月二十七日、石川の歴史遺産セミナーを開催。平成二十年一月の第一回から数え、四回目となる一般参加の公開セミナーです。今回のテーマは「考古学が語る白山信仰の世界」とし、近年の調査結果を交えて、白山山頂や馬場の遺物や遺跡など、考古学からみた白山信仰について考えようとするものです。三名の講師をお招きして発表をいただいた後、ご参加の皆さんからは質問も相次ぎ、活発な意見が交わされました。

催事日録

一月五日、六日の二日間、初売りで賑わう金沢近江町市場でワークショップ「べんだいを作ろう」を開催。活性化広場に用意されたべんだい作りセットは、あっという間に完売。市場を訪れたお客さんたちに大好評でした。また、市場の約二百店の店先には手作りのべんだいが飾られ、通りには歴博スタッフの力作「おぼけべんだい」（表紙写真）が威容を誇り、昔の金沢の正月気分を盛り立てました。



記念講演会（10月13日）



十一月三日、四十五日間に渡って開催された秋季特別展「御用絵師梅田九栄と俳諧」が盛況のうちに終了。期間中には講演会、列品解説、吟行会などの関連行事も実施され、多くの皆様のご参加をいただきました。また十月中頃には俳文学会第六十回全国大会が金沢市で三日間開催（会場・金沢市文化ホール）されたこともあり、その折には多くの俳文学研究者の皆様にもご観覧いただきました。

近江町市場でのワークショップ盛況！

秋季特別展終了

行事日程（2～3月）

月日	行事	内容
2 / 21 (土)	れきはくゼミナール	刷物の文化史 (学芸員 大井理恵)
3 / 1 (日)	常設スポット解説	町家と商い (学芸主査 大門 哲)
3 / 21 (土)	れきはくゼミナール	古代の日韓交流 加賀・能登と韓半島 (総括学芸主幹 高橋 裕)

主な刊行物のご案内

- 石川県立歴史博物館展示案内 (税込定価) 一、〇〇〇円
- 石川県立歴史博物館蔵品目録 三、五〇〇円
- 利家とまつが生きた時代 戦い・暮らし・女たち 九〇〇円
- 景勝をめぐる いしかわの景観史 二〇〇円
- いしかわの歌仙絵馬 四〇〇円
- 風俗画伯 巖如春 都市の記憶を描く 四〇〇円
- 源平合戦と北陸 義経伝説を育んだふるさと 六〇〇円
- 加賀百万石への道 戦国から太平へ 二〇〇円
- 昭和三十二年の戦後 戦国から戦後 一、〇〇〇円
- 石川のお宝史 名宝から文化財へ 三〇〇円
- 弥生ムラの風景 越のクニ生み・境界・交流 二〇〇円
- 御用絵師梅田九栄と俳諧 一、二〇〇円
- 総合カウンターで販売中。定価はすべて税込。郵送ご希望の方は、当館へ直接お問い合わせいただくか、当館ホームページ、刊行物案内（図録等）をご覧ください。（電話〇七六 二二六二 三三三六）

展示替えによる休館日（2～3月）

- 2月12日(木)～13日(金) 2日間
- 3月23日(月)～24日(火) 2日間

れきはく
トリヴィア

石管噴水の謎

「さん、にい、いち、ゼロ」「うわあ〜」。元気な小学生たちの叫び声が前庭にこだまします。石管から勢いよくふき出す水の、カウントダウンの光景です。

当館前庭（第二棟と三棟の間）の石管噴水モニュメント、ご来館の皆さんのお楽しみスポットの一つとなっているようです。でも、噴水が稼働する時間が一時間に一回と決まっているので、これが噴水であることに気付かないで通り過ぎる方もいらつしやるかもしれません。それにしてもちよつと風変わりな姿、この石管が元は何だったかご存知でしょうか？



その正体は辰巳用水の石管なのです。当館が開館したのは昭和六十一年十月。しかしこの時点で公開されたのは第一棟と第二棟だけ。そして第三棟が整備されて全館完成と相成ったのが平成二年十月。このモニュメントはそれを記念して造られたものです。そこで使われた素材が、この辰巳用水

の石管です。

寛永九（一六三二）年に造られた全長約十キロに及ぶ辰巳用水の導水管は、当初は木樋でしたが、江戸後期に一部を石管に取り替えられました。その石管

が後年の改修工事で出土し、その一部が保存されていました。これは石川県にとって貴重な文化財であるだけでなく、歴博のモニュメントとしても格好の素材ということで、再利用の運びとなりました。設計は建築家の川崎清京大学教授（当時）に依頼。その結果、何の変哲もない石管は、辰巳用水の豊かに流れる水を見事に表現した泉水形式の噴水として、歴博の庭でよみがえりました。さらに舗装面の縁石や池底の瓦などは、赤れんが棟を改修した時に出土創建時の用材を再利用しています。



雪化粧の池底

さてこの石管、いくら丈夫な石とはいえ、何せ江戸時代から働いています。それで冬場（十一月〜三月）は保護のためお休みをいただいていますので、あしからず。でも雪景色もなかなか風情がありますよ。



辰巳用水の石管（第6展示室）
金沢美術工芸大学所蔵

トリヴィア＝雑学的な事柄や知識、豆知識

平成二十一年度れきはくメイト
会 員 募 集!!

対象 なたでも入会できます。
期間 平成二十一年四月一日〜平成二十二年三月三十一日（一年間）
会費 年額一〇〇〇円
特典 広報誌「石川れきはく」、情報誌「れきはくメイト情報」ほか各種催し物案内が随時送付されます。また会員証の提示により、常設展の入場が無料（特別展開催時は団体料金）になるほか、「歴史散歩」や「バスツアー」など当館主催の各種行事に参加できます。詳しくは同封の案内書をご覧ください。
入会受付 二月上旬より随時受け付けています。ご希望の方は同封の申込用紙に所定事項をご記入の上、会費を添えて当館総合カウンターへ直接お申し込み下さい。郵送でお申し込みの場合は現金書留か定額小為替でお願いいたします。詳しくは同封の案内書をご覧ください。
申し込み・お問い合わせ先 当館普及課 〇七六 二六二 三四一七



昨年春のバスツアー



会員証



昨年秋の歴史散歩

本多の森から

歴博の新年は、金沢近江町市場でのワークショップ「べんたい作り」で明けました。スタッフ一同が昨年夏から地道に取り組んできたプロジェクトです。それだけに、お集まりいただいたお客さんたちの喜びの笑顔はとて嬉しく、寒さも吹き飛びました。ご参加の皆様、そして全面的にご協力を頂いた近江町市場商店街振興組合の皆様、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました!! 本年もよろしく願っています。